

新学期をひかえて

四月から新しく入園・入学する子供を持つ家庭では、健康のことをはじめ、うまく集団生活が送れるだろうか、友だちはできるだろうか、交通事故にあっていないだろうか——考えれば考えるほど心配のタネが付きなと思います。

そこで、入園・入学にあたって、お母さん方に気を付けていただきたい心得を紹介しましょう。

まず、友達づくりを

これまでの家庭の中で「お山の大将」をきめこんでいた子供たちも、入園・入学すると周囲は見知らぬ顔ばかりです。しかし、友達づくりは急速に進みます。一日も早く友達をつくること、子供たちにとって通園・通学をより楽しいものにする第一の秘けつです。

自己主張の強い子は協調性に欠けるところがあり、集団の遊びになじめず、すぐけんかをはじめたりします。また、口の重たい子とか神経質な子供は、集団生活のなかでがまんすることがなかなかできません。このような性格の子供に対しては、母親はそれとなく手助けをしてあげるように導びいてやってください。

たとえば行き帰りの道も、近所の友達や上級生といっしょに行動させるなどして、集団生活のルールを身につけさせるのもよいでしょう。

近くに同じ年ごろの子供がいなかったり、適当な遊び場所がなかったりすると、子供はどうしても家にとじこもりがちになります。外に連れ出して一緒に遊んでやるとか、友達を見つけてやるように心がけたいものです。また、自分の家に友達を呼ぶなど、積極的に家庭を開放す



るのもよいでしょう。

友達関係で気をつけたいのは子供の前で友達の欠点を口にしないことです。「あの子と遊ばないように」とか「もつとよい友達はいないの」などというのは、単なる大人の感覚でしかない場合が多いものです。まず子供のの世界を知ること、これが母親の第一の役割といえます。

規則や約束を守る子に育てよう

幼稚園や学校には、集団生活

のきまりがあります。家庭では許される依頼心や甘えも、これからは通用しません。みんなが決めた約束やルールを守ることが、社会生活をしていくうえで第一の基本です。幼稚園や学校は、子供にとっては最初に経験する社会であり、ひとりの「町民」としてのスタートの場でもあるのです。

用便や洗顔、食事のあとかたづけ、衣服の脱ぎ着など身のまわりのことは自分でするようにしつけ、集団生活の規則やエチケットをわきまさせることが

大切です。

また、対人関係のエチケットとしては、はい・いいえ・ありがとう・すみませんをはっきり言えるようにしておきたいものです。

ところで、決まりや約束が守れたら、忘れずにほめてやりましょう。守れなかったら、しかも前に子供の身になって、内容的に無理がなかったかどうか、強制的すぎて子供の心情にキズをつけるようなことはなかったか——などの点を考えてから適切な助言をするのが効果的です。



春の全国交通安全運動

4月6日～4月15日

新入学・入園児を交通事故から守ろう